

インフルエンザワクチン接種後副反応、健康調査のまとめ

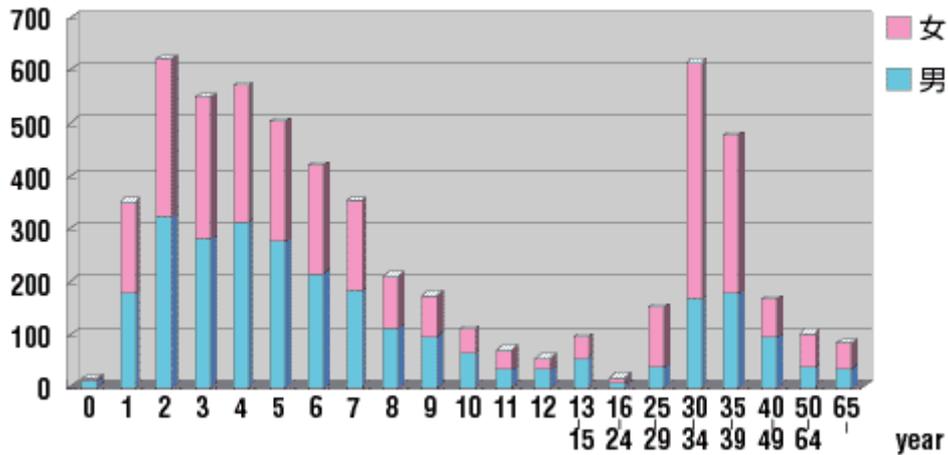
当院では97年4月開院以来、予防接種後の副反応、経過を知るため、接種後2週間の様子を記載した経過表を郵送していただく事を御願ひしてきました。

今回やっとインフルエンザワクチンの5年間のまとめが完成しましたので御報告申し上げます。

97年 98年 99年 00年 01年 02年
22例 395例 709例 1486例 3101例 2678例

今回のレポートは97-01年までの5年間の上記5713例のまとめです。この内4632例(81.1%)で経過表を回収出来ました。このような調査では驚異的な高い回収率で、皆様方のワクチンに対する関心の深さを反映するものと思います。

年齢別、性別接種数



グラフ1)は5713例(男2723例、女2990例)を年齢、性別にみたものです。

1歳未満は12例ありますが、効果に疑問があり02年から接種を中止しています。

65歳以上は86例ありますが、02年から65歳以上に対しては接種の取扱をやめましたので、01年までの件数です。(現在、静岡市では市の補助で65歳以上はどの医療機関でも1000円で受けられるようになっております。)

年齢により接種数にバラツキあり、グラフでは0歳から12歳までは1歳毎、以後13-15歳、16-24歳、25-29歳、30-34歳、35-39歳、40-49歳、50-64歳、65歳以上とまとめた事を御了解下さい。

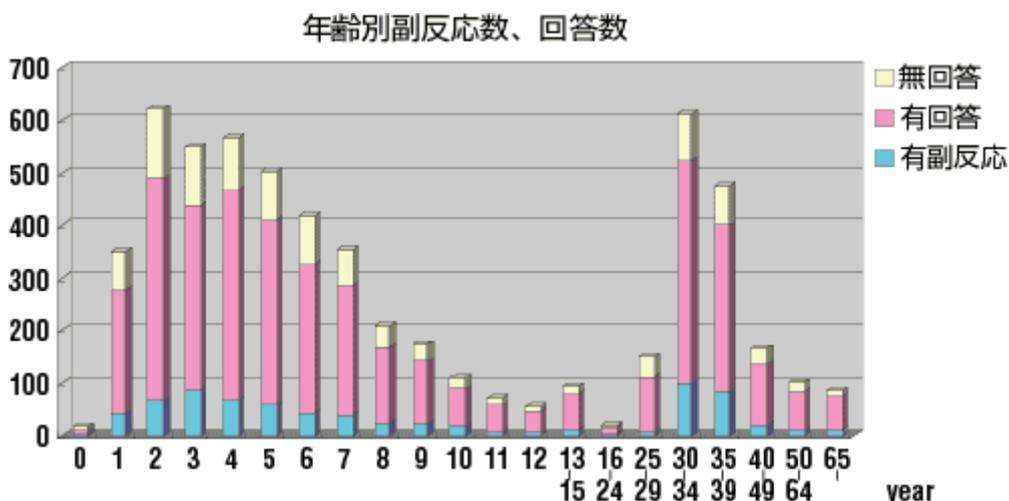
1歳から7歳までは300例以上と多く、2歳が622例と最高でした。8歳から減少して16-18歳は10例以下、19-20歳は0例でした。30歳71例、31歳96例、32歳122例、33歳162例、34歳162例、35歳119例となり、41歳以上ではどの年齢も30例以下となります。92歳が最高接種年齢でした。

00年から13歳以上は1回接種、13歳未満でも連続3年目の時は1回接種としていま

す。4、5歳までは2回接種例であり、このような数字となっています。

30歳代の接種例増加は親子一緒例の接種例の反映であり、この年齢では明らかに女性が多数を占めています。

まとめてみると保育園、幼稚園年齢での接種が多いようです。まだインフルエンザにかかった事がなく、園から勧められたり、脳症騒ぎが動機になっているようです。小学生ではすでにインフルエンザの罹患もあり、直接先生と会う機会も少なく、学校からの働きかけも少なく、接種も少ないようです。これでよいと思います。インフルエンザワクチンはやはり、主体は65歳以上の為と思います。

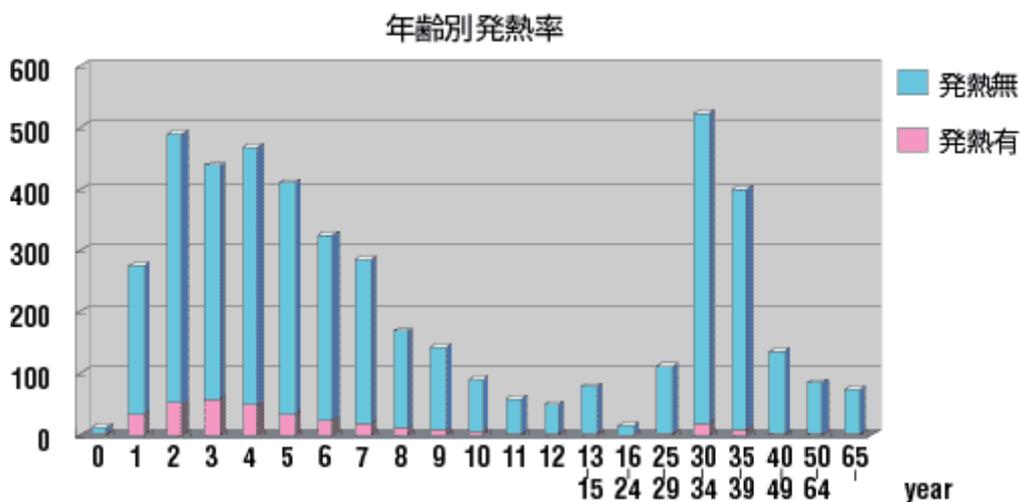


グラフ2)は年齢別に経過表をいただいた率と、その内副反応ありとの記載があったものをグラフにしたものです。黄色部分が経過表を回収出来なかった分、茶色以下が回収できたもので、青色部分が副反応の記載があった事を示します。結局、桃色と青色部分の合計が経過表を回収できたものです。

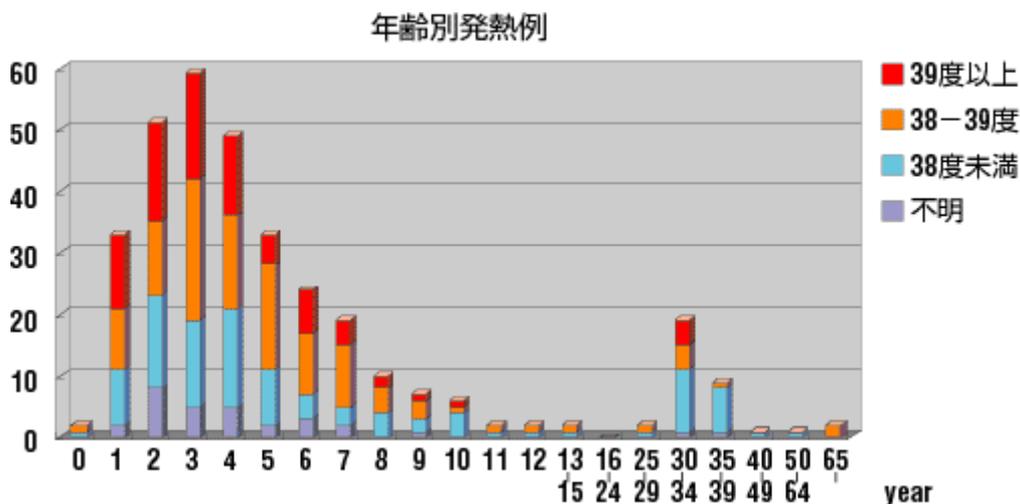
経過表を回収出来た例で何か副反応的な事の記載率は、2歳 68/489 (13.9%)、3歳 89/438 (20.3%) 4歳 69/468 (14.7%)、5歳 58/410 (14.1%)、6歳 45/325 (13.8%)、30-34歳 99/522 (19.0%)、35-39歳 84/400 (21.0%)、40-49歳 18/135 (13.3%)、65歳以上 10/75 (13.3%) でした。

30-39歳で高かったのは、痛みを訴える方が多かった事によるものです。65歳以上が13.3%とそれほど高くなかったのが意外でした。13-21%の方が何らかの不具合を書いています。しかしこれをもって、インフルエンザワクチンは危険なもの、副反応が多いと早合点しないで下さい。軽いものでは腕の痛み、頭痛、身体がだるいというの也被まれています。

ただし子供では熱に対しては37度3分、4分までは接種しています。又、咳、鼻水位なら接種しています。ですから子供の場合はこれ位はさすがに副反応から除外している事をおことわりいたします。



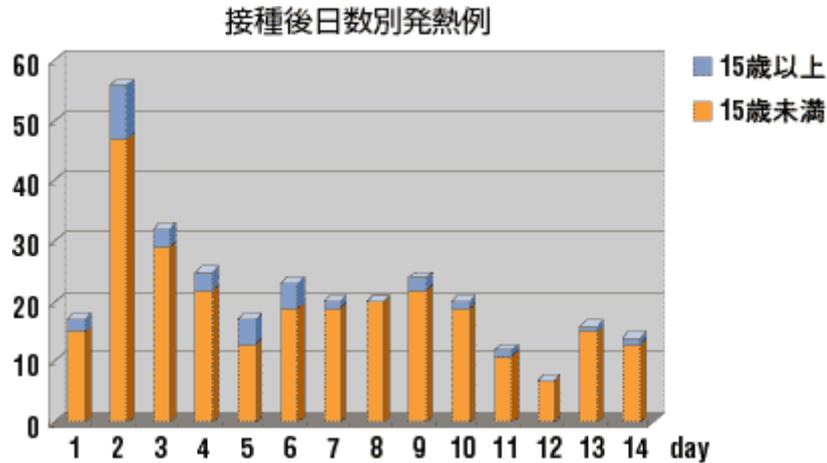
グラフ 3) 経過表を回収できた 4632 例で発熱例 333 例を年齢別にみたものです。発熱率は 1 歳 33/276 (12.0%)、2 歳 51/489 (10.4%)、3 歳 59/438 (13.8%)、4 歳 49/468 (10.5%)、5 歳 33/410 (8.0%)、6 歳 24/325 (7.4%)、7 歳 19/285 (6.6%)、30-34 歳 19/522 (3.6%)、35-39 歳 9/400 (2.3%)、65 歳以上 2/75 (2.7%) です。



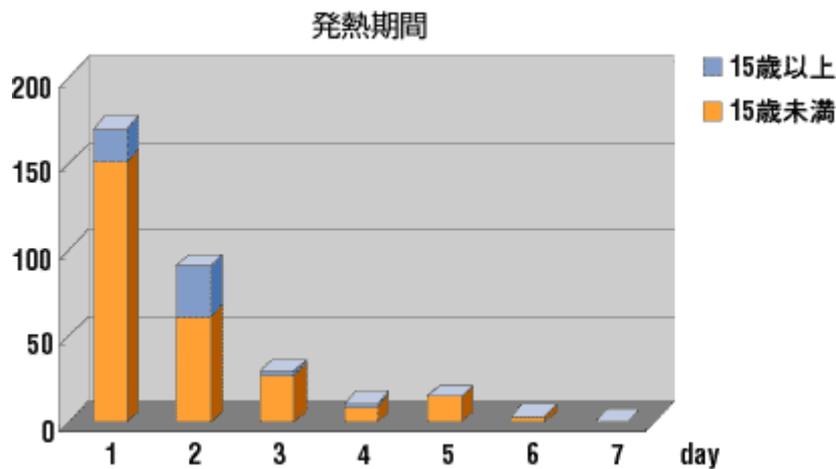
グラフ 4) は発熱例 333 例を不明 30 例、38 度未満 104 例、38-39 度 117 例、39 度以上 82 例の 4 群に分けてみたものです。

発熱率でみると 3 歳が 13.8% と一番高く、以後減少していきます、成人 30-39 歳では 2.3 から 3.6% です。又年少児童では 39 度以上の発熱も多いことが分かります。

成人に比較して年少児でワクチンの副反応として、発熱率が 5 倍も高くなるとは思えません。年少児では接種の有無にかかわらずそれだけ健康を保つ事が難しい。病気にかかりやすい、熱をだしやすい事を意味していると考えます。子供から老人まで、同じワクチンをこれだけ多数接種するのはインフルエンザのみです。年齢別の差を全年齢層で検討したのは今回が初めてですが、小児のワクチンの副反応を考える上で参考になるのではないのでしょうか。



グラフ 5) は発熱例 333 例から不明例 30 例を除いた 303 例を、接種後の発熱開始日をグラフにしたものです。



グラフ 6) は発熱例 333 例から不明例 30 例を除いた 303 例を 15 歳未満 271 例、15 歳以上 32 例を色を分けて発熱期間をみたものです。1 日※ (151,20) 2 日 (62,9) 3 日 (28,2) 4 日 (10,1) 5 日 (15,0) 6 日 (4,0) 7 日 (1,0) でした。(※カッコ内の数字はカンマより前が 15 歳未満、後が 15 歳以上の件数を表しています。) 2 日までの発熱が 15 歳未満では 78.6%15 歳以上では 90.6%でした。小児では 5 日以上発熱が 20 例もみられます。

これはワクチンの発熱というよりは、何らかの病気にかかったものと考えられます。

以下特別な病名がついているものを示します。日は発病日を接種後日数であらわしています。

- 1 歳 突発性発疹 (2d) 溶連菌感染症 (4d) 熱性痙攣 (2d、2-6d 発熱)
- 2 歳 アデノウイルス感染症 (9-13d 発熱)
熱性痙攣入院 (1-3d 発熱、3-9d 入院)
発熱入院 (2-6d 発熱、6-12d 入院)

発熱入院（10-14d 発熱、15 日入院）

3 歳 水痘（13d） 熱性痙攣（9d、9-10d 発熱）

4 歳 水痘（3d） オタグクカゼ（11d） 発熱入院（2-5d 発熱、5-11d 入院）

溶連菌感染症（8d） 溶連菌感染症（6d） 溶連菌感染症（3d）

5 歳 溶連菌感染症（2d） 溶連菌感染症（2d）

6 歳 溶連菌感染症（7d） オタフクカゼ（5d） インフルエンザ（9d）

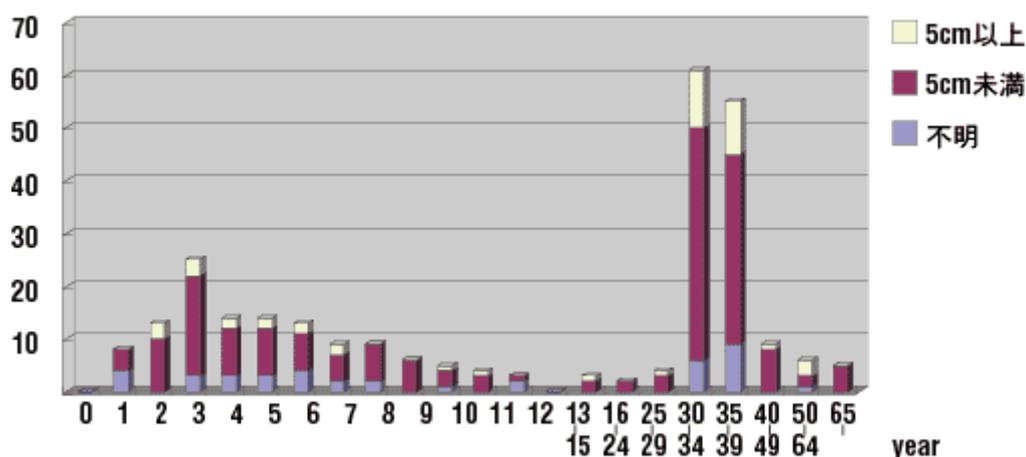
7 歳 急性中耳炎（5d） 溶連菌感染症（6d）

8 歳 溶連菌感染症（6d）

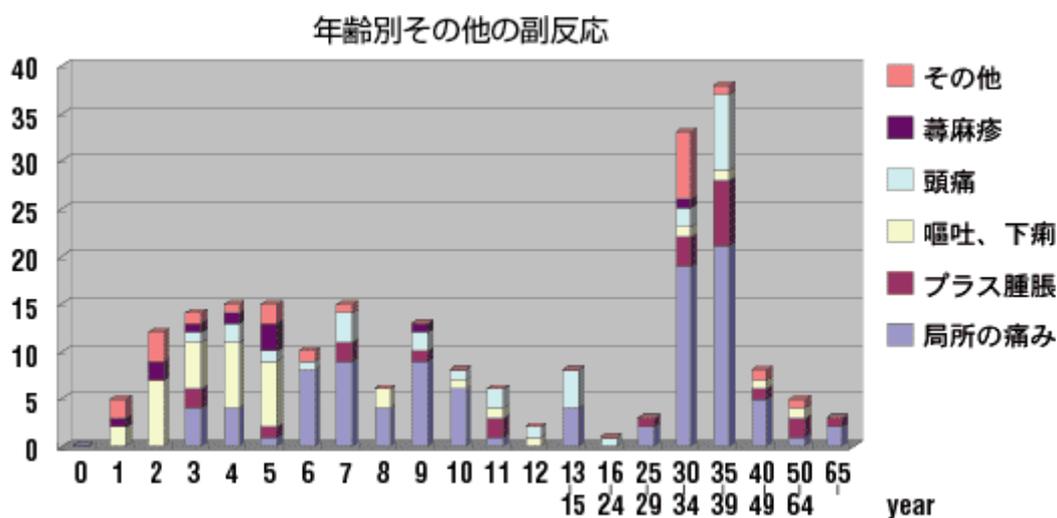
9 歳 マイコプラズマ肺炎（6d）

10 歳 溶連菌感染症（5d）

年齢別腫脹例



グラフ 7) は接種後の腫脹、発赤例 268 例を不明 40 例、5cm 未満 203 例、5cm 以上 43 例を年齢別に分けてグラフにしたものです。不明というのは少しという記載が殆どで 5cm 未満にいれても構わないように思いました。5cm 未満例でも 1-2cm のものが大半でした。0 歳 0/17、1 歳 8/350 (2.3%)、2 歳 13/622 (2.1%)、3 歳 25/550 (4.5%)、4 歳 14/569 (2.5%)、30-34 歳 61/613 (10.0%)、35-39 歳 55/476 (11.6%)。明らかに成人に多く、強く出ている事がわかります。



グラフ 8) はその他の副反応 214 例をみたものです。紫部分は局所の痛みのみ、茶色の部分は痛みを伴っていた例です。年少児では嘔吐、下痢が多く、成人では局所の痛み、腫脹が多いという特徴がみられました。

30 歳から 34 歳では 33/613 (5.4%)、35 歳から 39 歳では 33/476 (6.9%) の方が局所の痛みを訴えています。

最後に

接種前にはワクチンにはどんな副反応があるのでしょうかと、接種後には、発熱した・腫れた・身体がだるいがワクチンのせいではないかと電話での問い合わせが絶えません。短時間ではなかなかうまく答えられません。皆様と一緒に作ったこの報告書がその答えですというつもりで作成しました。接種前にこの報告書をお渡しする事によって医師としての説明責任、義務の大方を果たせたと思っています。インフルエンザワクチン接種後にはこの年齢ではこの位の事はあるのだという理解の上でワクチンを受けて下さい。本年度も経過表の郵送を宜しく御願ひ致します。尚本年度はインフルエンザワクチンの効果を確認する意味で別紙のごとく、インフルエンザ罹患時、その他の疾患の時はその時、また何もなければ H16 年 4 月にその旨お知らせ下さい。

ワクチン、パンフレットの費用でこれ以上郵送代が負担出来ませんが、誠に勝手ではございますが、自己負担での文書、手紙、はがき、FAX、メールでの御連絡を宜しく御願ひ致します。

ワクチン接種が事故なく終了でき、皆様方の健康に役立つ事を祈っています。

H15 年 9 月 21 日 まつもとこどもクリニック 松本延男